

美しさを見つけ出し、その美しさに手を加えてみんなの人がこれは美しいと思うようにすること。なかなかこれはいいなと思っても一般の人がそう思うようになりません。しかし手を加えると思うのであります。しかし、その際自然をこわしたのではともなくならず。ですから出来るだけ自然はこわさないようにと気を配ってあるのをごいいます。もうひとつはロードパークという考え方。今までの日本の観光は昔の人が造った神社とか庭園とか仏閣とかにすがってどうしたら儲けるかということだけを考える傾向がございました。しかしそれではないのではないかと私は考えます。今日は自動車で歩くんですから点を線に延ばし面に広げて行ってちょうど公園の中をドライブするようにしたら点の美しさに加えてドライブの楽しみが増えます。すると旅行はもっと楽しくなるのではないだろうかと思えます。これはつまりロードパークというアメリカで言われるようになった考え方でございまして、自動車の国アメリカならばこそこういう考え方が起ったと言つてよろしいかも知れません。

■「切り出し」と「植え足し」

日南海岸は日本で初めてロードパーク



▲雑木を切ったことで見事な赤松林に（えびの高原赤松干本原）

海がパツと開けるといふような景観はどこにもある景色でございます。そのどこにもある景色にどういふ手の加えかたをしたかと申しますとあそこにフェニックスの並木を植えたわけです。フェニックスの並木から太平洋を見たらもつと美しくなるだろうと思つたわけです。それが非常にあたりまして、ガイドが「太平洋でございます」と言いますと皆さんあつ／＼と喜んでいただきます。あのフェニックスの並木は美しさを見つけて出して、それをより美しくするために手を加えた「植え足し」でございます。これは熊本で景観作りをされる場合におつかい出来る手でございます。そして、熊本にもこんなところが沢山あると思ひます。そういうところには必ず何か手を加えていく。宮崎では私がフェニックスを植えました。日南海岸ですからフェニックスを植えたのですが、なにもフェニックスとは限りません。その地方にある一番いいものを植えますと、なる程これはいいなあとこのことになりす。そのほか日南海岸ではいろんなものを植えておりますが、もうひとつの「切り出し」といふのは一体どう

ものを切らしてもらい、全然ないところは奥の方から核をもつてきて植えました。植えたと切り出しの二つの方法で三万五千本の山桜がもう花が咲くほどに成長いたしました。こういうことをいたしまして景色作りをしてるのでございいます。

■並木は動く額縁

しかし、何と申ししても宮崎の一つの特徴はロードパークでございます。県でも沿道修景美化条例を作ってくれまして、その条例にもついで、いろいろなことをついたしておるわけでございますが、日南海岸のロードパークの特徴として三つ申し上げることが出来るように思ひます。一つはフェニックスの並木を作ったということです。日南海岸は昔は松がございました。松喰い虫にすっかりやられましてもう松を植えたつ駄て目だと思ひましたからフェニックスを植えたのです。

南国を表わすためにフェニックスを植えてきてそれが皆さんに非常におほめいただいております。そこで皆さんにひとつ並木とは何かということをお考え戴きたいと思ひます。それは景色作りのうえに非常に大事なこ

でございますからお話を申しあげますが、並木というものは歩く人のために影を作るというのが目的でございます。だから、もう自動車で走るようになったから並木はいらんのだろうと思つて勝手に切ってしまったのではないかと私は思ひますけれども、しかし、並木にはもうひとつ大きな役目がございます。それは並木自体が景観をなしておたということも勿論ですが、その外に並木は景色を見る額縁の役目をしておたということでございます。皆さんは写真をお撮りになる方が沢山ございまして、どんなに景色でも何か前景がないと写真になりません。ですから広重の五十三次の版画をご覧になりますと必ず富士山を描いておるわけですが、その前に松並木の松か何か必ず前景があります。前景がないと景色にならない。写真にもならないのであります。これは自動車で行くようになりまして必要ないことではあります。いわんや並木の場合、こちらが動きま

す景色がたえず変わります。いわゆる動く額縁という微妙な役目をしておるわけですが、その動く額縁という微妙な役目のことを日本人が忘れてしまつておるものですから勝手に切つてしまつたんです。これは惜しいことだと思ひます。ですから今後本当に景色作りをしようとい

う皆さんは、沿道にある木を切つてはなりません。何とかしてこれを残さなければなりません。無いたちには植えなけれはいいけません。そうしないと景色にならない。これを是非頭に入れていただきたいと思ひます。やまなみハイウェイが出来ましたときに松並木を植えられた時代がありました。私にはあれははまりましたと思ひました。何故かと申しますと、高原は高原の広々としたところが一番の美しさでございます。並木はその美しさを邪魔してしまひます。ちようど道路公団の総裁が上村さんでした。上村さんにあれはどうかといつたら上村さんもあれはおかしいと思つておられたら、今日参りましたと申すお話を聞かれました。これは取られてよかつたと思ひます。景色のよさをひき出すために植えられた木が邪魔になつては何にもなりません。何んでも植えればよいといふものではありませぬ。一番いいものをみつけてどうしたらより美しくなるかといふことで植えなればなりません。もちろん並木だけに限りません。路ほうの大きな木はこれを大事に残さないと絵にもならない。写真にもなりません。これだけは是非頭に入れておいていただきたいと思ひます。

■美しい景色はみんなのもの

もうひとつはあの日南海岸ではどこか空きますと必ず私の方で借りるか、買つかしめて、そこに芝を張りガードステイクを立て、木を植えて景色作りをしております。それを放つておきますと、茶店が出来まして写真が取れなくなりす。

堀切峠から出ましたところにつた一つフェニックスドライブインを作つたわけですが、あれは道が曲つておりましたのを真すぐ道路をぬきましたから山が二つ出来ました。その山を買ひましてそれを整地したのです。両方とも私の土地ですからドライブインを作るのなら普通なら海辺に作るわけです。しかし、私はこれは海辺の方はフェニックスやバナナを植えて後の方に作つたのです。皆に笑われました。何んぞそんな馬鹿なことをするかと言われたのですが、美しい景色はみんなのものであるといふのが私の考え方です。ですから前の方はオープンにしてみんなと一緒にいらんになつてもらひます。

この心遣いは非常に大事です。日南海岸では野外広告は一切させません。野外広告をする人には便利がいいかも知れませんが、それとひとつの野外広告が景色の邪魔になります。野外広告のスパンサー